

岩倉市立岩倉東小学校

『世界とつながる岩倉東小学校』

六年生 女子

岩倉東小学校は、今年で五十周年を迎えました。六年生としてお祝いできるのが、私にとってうれしいです。

岩倉東小学校には、今、多くの国の子どもがいます。全校児童の約四割近くが外国人です。私のクラスにも、パキスタンやフィリピン、ブラジルの子がいます。休み時間や下校後に声をかけ合って、とても仲よく遊んでいます。

なぜ、こんなに仲よくできるのかを私は考えてみました。

一つ目は、差別をする人がだれもないということです。肌の色が違っていても、日本語が話せなくても、そのことで差別する人は一人もいません。

二つ目は、外国の言葉を学ぶチャンスだということを知っていることです。クラスに外国の子どもがいると、自然にその国の言葉を学べます。

例えば、お礼を言うときは、「オブリガード」や「サンキュー」の言葉が自然に口から出てきます。



多文化共生 モデルスクール

三つ目は、「日本語教室」があるということです。岩倉東小学校には、外国人の子どもたちが日本語を学ぶ教室があります。日本語がぜんぜん話せなくても、日本語教室に通っていると話せるようになってきます。そうすると、おたがいの気持ち分かるようになってきます。

岩倉東小学校は、多い時は千二百人も児童がいて、運動場も子どもであふれていたそうです。

今は、百五十四人と少なくなりましたが、その分、学年がちがってもみんな仲よしです。そして、町の人がとてもよくしてくれます。

米づくりや町たんけん、ユニバーサルデザインの学習、読み聞かせなど、私たちは岩倉市の町の人から見守られ楽しく学び合うことができます。

ですから、私たちは、これからも一生懸命勉強し、日本のことを外国の人たちに紹介したり、教えてもらったりしながら、世界の人とながっていけるよう、仲よくしていきたいと思っています。

そして、次の百年、百五十年と仲よしの岩倉東小学校が続いていてほしいと思います。

この学校で育った子供たちが十年後、二十年後、きっとこの町をすてきな町にしてくれているはずですよ。

